

妙国寺寺報

平成十九年六月発行 第四号

ご挨拶

渡邊 義専

六月に入り、梅雨の季節がやってまいりました。六月は水無月と書きますが、水不足で水が無くて、さあ大変・・・というわけではありません。水無月の「無」は神無月の「無」と同じように、「の」にあたる連帯助詞としての意味をもちます、なので、「水が無い月」ではなくて「水の月」という意味があり、これは陰暦においての水無月が田に水を引く季節であったことからこう呼ばれているのだそうです。しかし今年の水無月はとても暑い！「水必月」といつてもいいくらいですね！地球温暖化の影響もあるのでしょうか・・・？この分だと夏がどれ程暑いのだろうか・・・と思いやられます。気候の変化が激しい毎日、どうぞお体を大事にお過ごしください。

さて、私妙国寺の次男 渡邊 義専 が長い都会暮らしの末、四月より熊本に帰ってきました。まだまだ慣れない点もあると思いますが、皆様方の温かいお力添えを頂きながら精進してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく御願いたします。私が自坊に戻ったのを機といたしまして、四月より朝のお勤めが再開されました。毎朝七時より、ご先祖様の供養と皆様の御多幸を祈願しております。ふと、思い立たれた時にも、朝のお散歩ついでにお気軽においで下さい。四月より始まりました朝のお勤めには毎朝、上野さん、井上さんご夫妻がいらつしやっています。毎朝太鼓を叩かれるお二人、とても上手になられました！奥さん方も団扇太鼓で頑張っておられます！お二組に朝のお参りに参加されての感想を聞いてみました。

朝のお勤め

井上 利光

四月下旬より、朝勤に参加させて頂いております。朝七時からの朝勤には、私は無理だと思っておりますが、一日も欠かすことなく、楽しく参加しています。早起きも苦にならず、新鮮な空気を胸一杯吸い込み、足軽やかにお寺へ向かいます。

お上人の朝のお勤めの中には、先祖供養やその日の命日に当たる方々の供養など、有難いお言葉があります。約四十分という時間が、あっという間に終わります。

この様な機会を与えてくださいます事感謝申し上げます。



朝のお勤めに参加しての感想

上野 涼補

四月二十三日、義俊お上人様から「毎朝七時より御堂でお経を上げております。よろしければ御夫妻と一緒に御参りされませんか。」と、声を掛けていただきました。一も二も無く御一緒させていただきます。と返事いたしました。それ以来四月二十五日から朝参りに参加しています。井上御夫妻もお参りされておられました。四〜五日過ぎた頃に南無妙法蓮華経のお題目に合わせて大太鼓を叩いてください。と言われました。義専お上人様に教わりながら練習を重ねました。左手で小さく叩く処がなかなかスムーズに打てませんでした。

朝のお勤めは四十分ほどで終わります。その後には太鼓の練習をしていたら、義俊お上人様が、強弱のめりはりを付けて、このように叩きなさい、と教えていただきました。

おかしなながらも毎日叩いておりましたら、今度は「此教難持」を叩いて下さい。といわれ、奥様に御教示していただきました。早く叩かねば成らない所が何箇所もあります。毎日練習しました。

あつという間に一ヶ月が過ぎていきました。今やっと叩けるようになってきました。しかし、お経は早すぎて、まだまだ目で追っていくのが、やつとと言う所で御座います。

石の上にも三年とは良く言ったものだ、と痛感しております。これからも、お経を繰り返して、読んで覚える楽しみを抱いております。

朝早くお参りしますと、気分も晴れやかとなり、毎日がついても充実しています。御堂は広いところですから、一人でも多くの方々に参加していただきまして、一緒に気持ちの良い朝を迎えていただきたいと思っております。

南無妙法蓮華経

